

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	コロナ禍における被災者の心の3密拡大事業
資金分配団体名:	一般財団法人日本未来創造公益資本財団
実行団体名:	NPO法人リエラ
実施時期:	2021年4月～2022年2月
事業対象地域:	大分県、佐賀県
事業対象者:	令和2年7月豪雨および令和3年8月豪雨による被災者

Version 3.2

日付: 2022/3/11

I. 事業概要

事業実施概要	<p>・コロナ禍で更に深刻化した、散在する被災者の孤立や孤独に対して個別訪問を行い、被災者の見える化を行い、一人一人の被災者の生活状況を鑑みて、カウンターパートと共に包括的な生活支援（災害ケースマネジメント）を実施・日田市の令和2年7月豪雨に関する情報を掲載した「災害復興情報しんぶん（仮）」を定期的を作成。コロナ禍の困り事の把握のためのアンケートを実施し、具体的な支援策を検討・日田市の取り組みを、大分県内の被災地行政と意見交換を行い、県域で同様の課題に対して検討。コロナ禍で深刻さが増した被災者の心と生活再建に関して包括的な支援を行い、発災から2年後の真の生活再建に向けたフォローを行う・佐賀県武雄市にて一社おもやいの活動の後方支援をおこない運営のサポートも行う。・武雄市の住民の精神面のサポートとして足湯サロンを開催する。これには令和2年7月豪雨被災地の日田市天瀬町から温泉を提供する。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>当初予定の事業は、コロナ感染状況も少なからず影響はあったものの、予定通り事業を進めることができた。また、コロナウィルスの感染状況が日々、変わっていく中で検温や抗原検査などで感染防止対策を行いつつ事業を実施することができた（現在、被災者と法人担当スタッフに感染者は出ていない）。コロナ禍で地域行事がほとんど開催されない中、情報誌等で復旧状況などを被災者に伝えることができて喜ばれた。課題及び事業設計に関しては、コロナの状況に応じて変更することはせず、感染状況に応じて手段を変えて対応することができた。未知数の感染症のため、さまざまな情報が錯綜するが、やれない理由を探すのではなく、やれる理由を探ることが必要で、そうしたこともコロナ対応の本助成金があったからこそ、事業だけではなく、法人として一歩進むことができたのだと感じている。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	その他	R2年7月豪雨災害/みなし仮設住宅入居52世帯の個別状況に合わせた包括的な支援体制の構築及び課題解決	個別訪問件数及び世帯数	個別訪問300回	452回	コロナ感染が拡大した時は電話対応にするなどして、被災者とコミュニケーションをとった。継続して声掛けができたことで課題を抱えている被災者を把握することができた。
その他	相談先の不足	R2年7月豪雨災害/みなし仮設住宅入居52世帯の個別状況に合わせた包括的な支援体制の構築及び課題解決	見守り支援ミーティング回数	4回	5回	訪問時の被災者の様子やアンケート結果をもとに行政や社協等と課題について検討することができた。
その他	その他	R2年7月豪雨災害/みなし仮設住宅入居52世帯の個別状況に合わせた包括的な支援体制の構築及び課題解決	災害復興情報しんぶんの発行数	6回	5回	情報誌を配布したことで被災地の復興状況が伝わり、再建場所として元の場所に戻ることも選択肢のひとつになった。
その他	相談先の不足	R2年7月豪雨災害/みなし仮設住宅入居52世帯の個別状況に合わせた包括的な支援体制の構築及び課題解決	県内被災自治体との会議数	2回	1回	当方の取り組みや情報共有会議開催を県内被災自治体を知ることで他自治体の被災者支援活動に繋がった。
その他	その他	R3年8月豪雨/佐賀県武雄市の被災住民の暮らしを安定させ衣食住が整う。	武雄市へのスタッフ派遣数	スタッフ派遣90日	181日	現地にスタッフを派遣し復旧活動や現地支援団体の運営サポートを行ったことで支援団体の負担軽減になった
その他	その他	R3年8月豪雨/佐賀県武雄市の被災住民の暮らしを安定させ衣食住が整う。	足湯サロン開催数	足湯サロン開催1回	1回	被災地から被災地へ支援活動をすることで受援者が支援者となりお互いに再建への励みになった。
その他	食料関連の不足	R3年8月豪雨/佐賀県武雄市の被災住民の暮らしを安定させ衣食住が整う。	炊き出し日数及び食数	30日、食数1800食	8日、831食	コロナ禍により炊き出しボランティア活動ができないことから地元飲食業者へ弁当を依頼し配食した。キッチンで被災や調理をする気力をなくしていた被災者へ安定して食事を届けることができた。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	再建支援金受給100%をめざす。また被災者の心身の復興を目指し見守り支援情報共有会議を継続して開催していく。
考察等	本事業にて行政等と情報共有会議を開催してきたことで信頼関係を構築することができた。再建支援金の受給期限が迫りつつあるため行政の担当部署より被災者の想いや状況について問い合わせがあり情報共有をおこなっている。今後は受給漏れや支援の漏れをなくすよう、受給100%を目指し被災者へ声掛けをおこなっていく。さらに、心身の復興のサポートもおこなうため関係機関と連携して見守り支援活動を継続する。

V. 活動

活動	進捗	概要
個別訪問(対象:みなし仮設住宅52世帯・在宅50世帯)	計画通り	コロナ感染者拡大時は電話連絡にて対応するなど工夫しつつ継続して声掛けをおこなった。みなし仮設住宅入居者はコロナの影響もあり孤立・孤独を感じている人もいた。
災害復興情報新聞の発行	ほぼ計画通り	被災前に居住していた町の復旧復興状況を伝えるツールとして作成し訪問時に配布した。懐かしそうに読んでる被災者もいた。
日田市内のみなし仮設住宅等見守り支援ミーティング	計画通り	隔月で開催。日田市、日田市社協、包括センターの職員および地元支援団体（一社）あまみらが参加して被災者の状況報告をおこない、包括的な支援体制の構築をおこなった。
県内被災自治体との情報共有及び意見交換	ほぼ計画通り	大分県内の被災自治体との被災者支援に関する情報共有及び意見交換会を実施した。大分県職員も参加し、被災者の再建状況等について意見交換をおこなった。
日田市内の災害復興に関わる会議等への参加	計画通り	日田市天瀬町にて復興支援活動を行っている一般社団法人あまみらと活動状況についての会議をおこなった。あまみらは在宅被災者の見守り訪問等をおこなっており、被災者の情報共有もおこなった。
コロナ禍の困りごとの把握のためのアンケート実施及び集計	計画通り	日田市社協主催のフードパントリーの場にて来場者を対象にアンケートを実施。123名からヒアリングしシングル世帯の困りごとが表面化された。
被災地交流会へ参加	計画通り	被災地の日田市中津江村および天瀬町にて開催された防災交流会、復興交流会に参加。射的や焼きそばのブースを担当し被災住民との交流を図った。
再建意向調査および困りごと調査アンケート実施及び集計	計画通り	みなし仮設住宅入居者を対象にヒアリングアンケートを実施した。また災害に遭うことが不安という理由で、元の場所にもどることを迷っている世帯や戻らないと決めた世帯もあり、アンケート集計を行政職員と共有し被災地の防災対策も課題であることを認識した。
R3年8月豪雨対策会議	計画通り	日田市社協と一般社団法人あまみらとで豪雨災害の被災状況および復旧作業について検討する会議をおこない、災害ボランティアセンターを設置しボランティア募集し支援活動を行うことにした。さらに、武雄市の支援活動に対しコロナ禍で県外ボランティアが現地に行けない中、どういった支援ができるのか、現場は何を必要としているのかを考える座談会を開催した。
R3年8月豪雨天ヶ瀬温泉街水害ボランティア活動	計画通り	一社あまみらと協働にてボランティアを募集し日田市天瀬町にて復旧作業をおこない2日間で140人弱のボランティアが参加した。
緊急期復旧作業支援（武雄市）	計画通り	現地にて約100件の家屋復旧作業をおこなった。また現地に資機材の貸与もおこなった。
武雄市へスタッフ派遣（武雄市）	計画通り	9月～2月まで武雄市の災害支援活動団体一般社団法人おもやいにスタッフを派遣し組織運営のサポートを実施した。
足湯サロンの開催（武雄市）	計画通り	武雄市の被災者にホッと一息ついてもらうために、日田市天ヶ瀬温泉を現地に持参し足湯サロンを開催した。武雄市長が来場した。
炊き出し支援活動（武雄市）	ほぼ計画通り	キッチンが被災して調理ができなかったり調理する気力にならない被災者を対象に、配食をおこなった。コロナ禍で炊き出しボランティア活動ができないため、地元飲食店に依頼しお弁当を作ってもらった。
ヒアリングアンケート実施（武雄市）	計画通り	水害常襲地でありR3年8月豪雨の災害は住民の落胆は大きく、被災者の心の想いを具現化し関係機関と共有するなどして今後の対策を検討する。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	特になし
---------------------	------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	みなし仮設住宅入居者および在宅被災者の見守り支援活動を継続して行ったことで、コロナの影響と災害の影響でコミュニティが薄れている中、被災者の孤立・孤独感を軽減することができた。また、被災地での交流会では久しぶりに住民が集まり、まちが賑わい活気が出て住民が喜んでいたのが印象的だった。被災から2年を迎えることからみなし仮設住宅入居期限が迫っていることから、今後も再建に対する不安な想いや課題を被災者に聞きつつ、行政や社協等の関係機関と包括的に支援を継続して行っていく。さらに再建から1年後までは再建地でのコミュニティの形成のサポートもおこなっていく。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
日田市	隔月で開催した情報共有会議に毎回参加し、再建支援金の受給漏れをなくすため被災世帯ごとの現状確認を行うことができた。
日田市社会福祉協議会	隔月で開催した情報共有会議に4回参加した。社協主催のフードパントリーには当方へ参加依頼あり、コロナ禍の困りごとに対するアンケートを実施した。
日田市南部包括センター	隔月で開催した情報共有会議に4回参加し、包括センター管轄の被災者に関する見守り支援の強化をおこなった。
一般社団法人あまみら	被災地の天瀬町にて被災住民とともに復興活動を実施。当方は後方支援をしつつ毎月情報共有会議をおこなった。
被災自治体および大分県	県内被災自治体との情報共有および意見交換をおこなった。
生活協同組合コープおおいた	コープおおいた職員を当方へ派遣。支援物資の提供をいただいた。
一般社団法人おもやい	武雄市の災害支援活動のカウンターパートとして連携して活動をおこなった。
trattoriYa	炊き出しお弁当の協力

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	16,240,314	16,240,314	100.0%
	管理的経費	964,586	964,586	100.0%
合計		17,204,900	17,204,900	100.0%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	当方ホームページ、facebook（11/6(11/3天瀬交流会）、9/27(9/26武雄支援天ヶ瀬温泉足湯活動）、9/8.10（武雄支援活動）、8/23（天ヶ瀬支援活動）、4/27（4/25フードパントリー）
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	復興新聞「いっばいっば」1号～5号を作成（5月、7月、9月、11月、1月発行）
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	上記にて掲載、購入備品への貼付
4.報告書等	令和3年8月豪雨災害について本事業活動報告書（作成中）

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	